

「価値の消失25年知らない」

リビンマッチ調べ 木造住宅の価値

不動産関連の比較査定サイト「リビンマッチ」を運営するリビン・テクノロジーズ10月18日、「木造住宅の日」（日本木造住宅産業協会制定）に合わせて、20歳以上のサイト利用者102人を対象に「木造住宅の価値」に関する調査を実施した。

同調査で持ち家が資産になるかを聞いたところ、84・3%が「はい」と回答し、「いいえ」は15・7%にとどまり、「持家＝資産」との概念を持っていることが浮き彫りとなった。

「自宅は築何年まで住めると思うか」も聞いたところ、最も多かったのが「40年以上50年未満」と「50年以上60年未満」がともに21・6%となり、「30年以上40年未満」（17・6%）、「20年以上30未満」（11・8%）、「20年未満」（10・8%）、「60年以上70年未満」（7・8%）、「90年以上100年未満」（100年以上）（共に3・9%）と続いた。

木造住宅の耐用年数は22年。木造住宅は築20～25で価値がゼロに近づくとの慣例について「知らない」（57・8%）が約6割を占めた。「聞いたことがある」は30・4%、「きちんと理解している」は11・8%だった。

「建売ではなく設計士による注文住宅で建築したので価値は違う」、「木の種類や建築方法が今は進化している」ので築70～100年程度で良いのでは「など」「耐用年数＝耐久年数」と思い違いしているとした。また、対策としては、「わかeraい」（38・2%）と「特に何もしない」（29・4%）で7割近くを占めた。